

公表

## 事業所における自己評価結果

令和7年3月1日

公表日

事業所名	きらり玉島（放課後等デイサービス）					
チェック項目	はい	いいえ	工夫している点		課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	建物自体は狭いが工夫して使っていると思う。もう少し広げればなおよい。 幼児と児童の活動するスペースを分けています 課題に応じて、机の位置や、スペースを変更している	利用児がのびのびと過ごせる環境を引き続き整えていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	2	1～2名増員することも必要。 職員の経験年数があれば運営はできるが、経験が浅い職員であれば嘱託の先生の増員は必要。また土曜日に出動できる職員が必要。	職員配置は現段階では適正。 引き続き安全に運営できるように職員間で連携を実施していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	3	階段が急なので、バリアフリーではない。 階段が急であること、建物の老朽化、耐震についても確認が必要。 階段があるので、引き続き安全に使用できるようにしたいです	階段は急である為、引き続き職員でも見守りを実施していく。建物に関しては必要な部分を修繕する等して安全に受け入れ出来る様に努める。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	建物は少し古いですが、消毒などこまめに掃除を行ったり、利用児と一緒に掃除を行ったりしている。 子どもたちの様子やOTの助言をいただいて工夫している。 毎日清掃、環境整備を行なっています	引き続き環境整備を職員間で実施する。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	必要に応じて相談室を解放して、個別で過ごせる環境を設定している。 ゆったりエリアがある等メリハリがある。 集まりの部屋は少し狭いように感じる（運動課題をする際等）	利用児さんの意思を尊重して、クールダウンが必要な場面では個別のエリアを活用していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	0	職員間での話し合いの時間を大事にしており、日々支援の振り返りを実施している。終礼、朝礼、隙間時間を活用して共有している。 短い時間でも、共有する時間や、文章でのやり取りを行なっている。	引き続き意見が出しやすい雰囲気づくりを実施していき、職員全体で支援を考えていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	必要に応じて懇談を実施したり、引き継ぎ時に保護者と共有したりしている。 数年に1回第三者評価を実施している。 保護者からの意見を毎回職員間で共有している。	頂いた意見は職員全体で共有していき、次年度に活かしていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	日々の終礼や目標管理面談の中で伝えている。 空き時間や終礼などでお互いが話す機会を設けています	引き続き実施をする。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	1	数年に一度第三者評価を実施している。	引き続き実施をする。
適切な支援の提供	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	毎月事業所内研修を実施している。 支援についての振り返りやケース会議も適宜実施をしている。 事業所内研修等自分で考えて他者へ伝える経験も出来ている。 中々行きたい研修に参加出来る職員配置にはなっていないと思	引き続き実施をする。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0		引き続き実施をする。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	日々の様子や保護者の要望に応じて計画を立てている。 保護者の要望書、会議での話し合いを含めて支援計画を立案している。 定期的にあセスメントを行なっています	アセスメントを適切に行い、保護者のニーズを踏まえて支援をチームで立案していきたい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	計画に沿い、利用児からの要望と話し合いながら活動を決めている。 年齢が、大きくなるほど、専門的な支援の必要性があると思う	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	標準化されたツールは、病院受診時のものを参考にしている。 アセスメントシートの活用をしている。	今後もアセスメントシートを活用していき、必要な課題の抽出をしていきたい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	左記の支援内容を含めて項目ごとに入れている。 それぞれの課題について職員間で共有している。	引き続き実施をしていきたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	プラン会議を実施している。 職員間でねらいを共有して活動を立案している。	引き続き実施をしていきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	1人だけが活動を設定するのではなく、様々な職員が活動を設定している。 児の様子に合わせてたり、したい活動の意見を聞いてできる限り取り入れている。	引き続き実施をしていきたい。
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	放デイは単独での利用が多いが、長期休みや休業日の利用の際には できる限り他児と一緒に活動できる機会を設定している。	個別課題だけではなく、小集団活動も取り入れて、社会性を育んでいける様に設定をする。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	朝礼の時間を活用している。 毎朝朝礼を実施したり、朝礼記録で業務連絡を把握したりしています	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	終礼でその日の利用児の様子や、気付きを共有している。 毎日終礼を行い、共有しています また終礼記録をつけ振り返られるようにしています	引き続き、意見、気付きを出しやすい雰囲気づくりを事業所全体でしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	連絡帳、終礼にて記録をとっている。 ケアコラボにて支援での姿を細かく記載している。	引き続き実施をする。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	登園後には支援の振り返りを実施している。 必要な項目を見直している。	引き続き実施をする。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	5	1		引き続き実施をする。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	自分で選択して活動する機会を設けている。 子どもの意見を聞きながら行っている。様子に合わせてこちらの意見を伝えている。	引き続き実施をする。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	主に管理者、児童発達支援管理責任者が参加している。	引き続き実施をする。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	学校との連携には、ソーシャルスクールワーカーとの連携が、必至だとおもわれる。 相談員等との連携は都度行なっている。	引き続き関係する機関との連携を行い、利用児さんの現状を共有していき、支援に繋げていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3	3	トラブルなどについては、保護者から聞き取り、必要に応じて電話連絡を行い、共有をしている。 連絡帳を介して3者で共有を図っている。 不登校支援のため、年に1回担任の先生と話をしている。学校での出来事は保護者を通じて共有することが多い。	上記同様に連携に努めていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	2	必要であれば情報共有していきたい。 他事業所から移行してきた児については連絡をとり家庭の様子等を伺っている。	就学前の施設との情報共有は、年数が経つとしていないのが現状。移行当初は様子については共有する為、関係作りに努めていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	4	情報提供はしているが、細かくは実施出来ていない。 今後実施していく必要がある。 将来を含めた情報提供が必要。	将来を見据えた情報提供を事業所からも実施していきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	3	センターと合同で勉強会を実施している。	引き続き実施していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	3	地域の交流会に参加する機会を設定している。 きりぎり卒園児のお子さんがボランティアで来てくださった時に一緒に活動をした。 地域の子どもの交流が、本人の特性から、難しい場合もあるので、臨機応変な対応が大切と感じる。	地域のクラブ等との交流は未実施である為、地域の社会資源を活用した活動も立案していきたい
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	1		引き続き参加をしていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	日々の連絡帳や引継ぎにて共有している。 引き継ぎなどで子どもの様子を共有しています	引き続き実施をする。
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	0	ペアトレ、サポートブック作成会など保護者支援の為の会を随時実施している。	様々な勉強会等を通して、家族を支える体制づくりを引き続き実施していきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	利用前に説明会を実施して、個別に丁寧に説明をしている。	引き続き実施をする。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0		引き続き実施をする。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0		引き続き実施をする。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	引き継ぎ時や懇談などで適宜支援を行なっています 必要に応じて引き継ぎや懇談で保護者の困り感等を把握している。	引き続き実施をする。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	2	適宜実施をしている。 利用人数が少ないため、定期的には実施できていないのが現状。	母親だけではなく、父親、兄弟児を含めた活動を実施していく必要がある。次年度以降に活かしていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0		引き続き実施をしていく。

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	0	Instagramやケアコラボ、通信にて発信している。ケアコラボや通信などで適宜発信するようにしています。法人内容snsを使ってきりりて取り組んだ内容等を伝えている。	引き続き実施をしていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	写真掲載の許可を取ったり、引き継ぎの際に周りに配慮していますが、引き続き気をつけていきたい。	引き続き実施をしていく。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	児に合わせて実施している。児が自分の言葉で伝えられるよう支援をしている。	引き続き実施をしていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2	毎週ボランティアの方がきており、交流している。卒園児の祖父の方が釣り等に連れて行って下さり、交流を図っている。行事を招待することは実施していない。	まずは地域の行事を知ることから始めていく。地域行事に職員が足を運ぶことからスタートしていきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1	避難訓練は月1回実施をしている。火災、地震、津波、不審者などの様々な災害を想定しながら実施をしている。	引き続き実施をする。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0		引き続き実施をする。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0		引き続き実施をする。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1	特別な活動がある際には活動前にも食べても良いか確認をとっている。職員間で提供時にはダブルチェックをしている。	引き続き実施をする。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	必要な訓練は都度実施をしている。	引き続き実施をする。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1	訓練時には家族に訓練内容を共有している。通信で災害訓練内容について事前にお知らせをしている。	引き続き通信等で保護者に周知をしていく。様子についても連絡帳で共有していきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	・アットポケット（電子媒体）に記載。終礼時にも事故などの要因、対策については共有。 ・月末に1か月にあった、事故、ヒヤリなどを全体で共有。職員で共有して再発防止に努めている。	引き続き職員間で原因、今後の対策を検討、共有していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	・虐待防止の研修を実施しており、職員間での日々の関わり、声掛けの仕方、等必要な事項を確認している。日々の支援の振り返りを実施している。	引き続き実施をする。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	・契約時に身体拘束について説明を実施している。保護者に了解を得て同意を得ている。	保護者だけではなく、利用児さんへも分かりやすく説明を実施して了承を得ていく。	